

CONTENTS

はじめに	3
本書の読み方	5

第1章

清朝の混迷

第1幕	空前の絶頂に巢食う汚吏	
	清朝腐敗の浸透	13
第2幕	イェヘナラ 葉赫那拉の呪い	
	乾隆帝以降の清朝系図	21
第3幕	秀才たちの近代化はいかに	
	洋務運動の展開	29
第4幕	朝鮮、いまだ攘夷鎖国にあり	
	大院君摂政	41

第2章

日本開国

第1幕

黒船来航の衝撃

日米和親条約の締結

49

第2幕

条文に仕組まれた陰謀

日米修好通商条約の締結

61

第3幕

「短刀一本あらば…」

大政奉還

69

第4幕

江戸幕府の最期

戊辰戦争

81

第5幕

「独力にては、西欧列強に抗しがたく…」

日清条約交渉

91

第6幕

日本、台湾に出兵す！

日清修好条規の締結と国境画定

99

第3章

日清戦争

第1幕

砲艦外交と見え透いたワナ

江華島事件

107

第2幕

朝鮮ついに開国す

日朝修好条規の締結

115

第3幕

旧式軍隊の不満爆発

壬午軍乱の勃発

123

第4幕

三日天下の末に…

事大党と開化派の対立

131

第5幕

李鴻章の憂鬱、そしてその裏で

清仏戦争

137

第6幕

見切り発車のクーデタ

甲申事変

145

第7幕

軍拡の10年、その成果はいかに

甲申事変後の日清

153

第8幕

日清両軍出兵、そして「最後通牒」

甲午農民戦争

163

第9幕

一進一退の激戦！

日清戦争

171

第10幕

喜びも束の間のうちに

下関条約と三国干渉

187

第4章

中国分割と日露対立

第1幕

ハイエナがごとく、我先に！

中国大陆の勢力範囲争奪戦

199

第2幕

光緒帝の希望の星、康有為

変法自強運動

213

第3幕

改革の壁と裏切りと

戊戌の政変

223

第4幕

「扶清滅洋」を叫びつつ

義和団の乱

233

第5幕

ロシアの脅威、迫る！

北京議定書

245

第5章

日露戦争

第1幕

戦争は避けられるか、一縷の望み

日英同盟の成立

253

第2幕

絶望的な見通しの中で

日露戦争 準備

265

第3幕

快進撃は続くか

日露戦争 緒戦

277

第4幕

旅順要塞の死闘

日露戦争 激戦

289

第5幕

バルチック艦隊、現る！

日露戦争 最終決戦

303

第6幕

決裂寸前の講和会議

ポーツマス条約

319

第7幕

新たなる時代の幕開け

日露戦争の世界史的影響

327

Column コラム

稀代の悪女・西太后	28
中華思想	40
科挙の実態	48
明白なる天命	60
慶喜遁走の謎	90
朝鮮史概論	114
帝国主義時代	130
ハリスの陰謀	136
李・左・張 ミツ巴	144
金玉均「最大の失態」	152
西太后と北洋艦隊	162
「逃げ艦長」は名提督か	177
高陞号撃沈事件	179
「逃げ将軍」葉志超	183
李鴻章vs小村寿太郎	186
尖閣諸島問題	198
香港返還	212
康有為の思想	222
袁世凱	232
ライスクリスチャン	244
東大七博士の意見書	263
ブラゴヴェシチェンスク事件	264
宣戦布告なき開戦	288
ロシアの日本人観	302
失敗は成功のもと	318
日露戦争の勝因とは？	334

